

会議名	第11回新城地域協議会		公開
日時	令和8年2月14日(土) 午後1時00分～午後4時45分	場所	市役所本庁舎 4階会議室
出席者	(委員) 西尾泰昭、権田康之、矢賀美紀代、坂部岳、杉浦史佳、佐本達俊 今泉澄夫、丸山哲也、藤田雅久、中川享子、今泉克英、 鈴木雅晴、白柳明美、安形元成、今泉光俊、今泉栄、畠山恵美子		
	(事務局) 市民協働部：松下部長 市民自治推進課：早川参事、宮本副参事 新城自治振興事務所：今泉所長、藤本主事		
欠席者	村松敬史、坂巻克彦、小栗健次、 福本克司、大瀧章義	傍聴者	0名
配布資料	審査会予定表、審査をしない委員一覧表、採点票		

### 議題・議事・発言等（要点記録）

<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（会長・市民協働部長） 委員22名中17名の出席により会議成立の報告、及び会議録署名委員の指名（杉浦委員）</p> <p>3 説明 事務局より審査の流れについて説明をした。</p> <p>4 公開審査 申請のあった8件について、団体からの事業説明、委員からの質疑応答、採点票記入の順序で審査を行った。 以下、各団体への質疑応答を記載する。</p> <p>①子育て応援交流会（新城こども園保護者会）</p> <p>Q1： 予算が倍増しイベント数が1つ増えたのは、どのような考えからですか。</p> <p>A1： 交付限度額が50万円から100万円に増えたことからイベントの選択肢が増え、これまで行っていなかったイベントも実施しようと考えた。</p> <p>Q2： どのような形で地域への広報活動を行っていくのか、また地域の人とのかかわりはどのような世代の方をねらっているのか教えてください。また子育て世代以外との交流はどのように進めていくつもりですか。</p> <p>多くの方々との交流を持つために、平日開催でよいのでしょうか。</p> <p>A2： 広報活動は主に未就園児を対象としているため、子育て支援センターと、新城・城北こども園のポスター計3枚で行っていたが、今後は子育て世代以外との交流のため、入船公民館へのポスター掲示や入船区の回覧の告知も検討したい。参加者へのポストカード配布やイベント後のアンケートで、今後の交流にもつなげたい。ただし、駐車場数や人員制限もあるため、告知範囲は広げすぎないようにしたい。 イベント開催日について、週末に近づくと園児の疲労が溜まりケガも起きやすくなる</p>
--

ため、平日に行く。土日は親子の時間や休息に充ててもらおう。

Q3:

子どもたちの情操教育のために今後どのように活動を進めていくのか、さらに城北こども園との連携や、小中高との連携は考えていきますか。

A3:

子どもたちが日々遊びの中で様々な経験を積み、楽しんでいくことを重視している。イベント後にアンケートをとり、子どもがどう感じたか・どんな変化があったかを把握し、今後につなげていきたい。

城北こども園との交流は、昨年度は城北こども園へお散歩を実施した。小学校へは参加できそうなイベントに参加することがある。中学校は家庭科の授業で見学、高校はインターンシップ受け入れもある。

### ②子どもの健やかな育ち応援プログラム（城北こども園保護者会）

Q1:

昨年度より企画数を1つ増やしたのはなぜですか。5つのイベントは子どもたちの負担にはつながりませんか。また、クラウンショーを企画した理由は何ですか。

A1:

交付金内定時期が早まり、新年度の夏の暑さが来る前の春に屋外イベントができるようになった。新しいクラスの子どもたち同士が打ち解けるきっかけになるとも考えた。いずれも保育時間内で無理なく参加できる内容にしている。クラウンショーは、普段なかなか触れることができないパフォーマンスを、子どもたちが安心できる身近な場所で体験できる機会として企画した。令和7年度も5回のイベントを実施したが、問題なくできた。

Q2:

様々な世代との交流を深めるために、どのような広報活動を行い、参加を促していくのでしょうか。（未就学児、近隣の人々、お年寄り、保護者同士の交流）

A2:

城北子育て支援センターに案内を掲示している。防犯面の配慮も必要であるため、現時点では未就園児を含め子どもがいる家庭を中心に交流できる機会にしたい。将来的には地域との関りを広げていくことも視野に入れているが、まずは安心安全を第1に考えている。

Q3:

各種イベントが保育時間内の活動になっていますが、こども園の行事では得られないメリットを教えてください。新城こども園との連携、小中高との連携を考えていますか。

A3:

保護者会が主体となり、専門の業者をお願いすることで、園児の安全面に配慮しながら、子どもが思いっきり楽しめる環境づくりができる点が大きなメリットだと考えている。

他の園や学校との連携については現時点では、園や学校側の負担が増えるため予定していないが、今後、地域との繋がりが広がっていく中で無理のない形で検討していきたい。

### ③地域の誇りとなる無形文化財「祭礼能」の継承と発展事業（新城能楽社）

Q1:

祭礼能の継承と発展のためのおもな活動と、資金計画を教えてください。

A1:

主な活動は8月薪能と10月祭礼能に向けた活動。その他イベントへ随時参加し、後継者育成を兼ねて継承への理解を促している。

収支計画については、繰越金等を除くと年間約193万円の収入。主なものは会員会費。支出は先生への謝礼が年間120万円。薪能開催費への補填等を含めると、収支としてトントンである。今回の申請において交付金で賄えない分は、寄付や積み立てで捻

出する予定である。

Q 2 :

後継者の育成に関して現在活動されている11人以外に今後参加されそうな方は何人いますか。また、後継者の育成で成果のあったことや問題点はどのようなことですか。

A 2 :

7年度に男性1名が参加した。他に見学者もあったが、仕事の関係か、連絡がなくなった。290年継承されてきたものを、次の世代につないでいく責務があると思っている。

育成の成果と問題点について、今はギリギリ最低限の新陳代謝が図られている。新しく参加した人が熱心に指導を受けていること、それ自体が成果だと心強く思っている。プロの指導には経費がかかるが高額であり、新入会員の経費負担をお願いするのは若干の躊躇がある。

Q 3 :

能装束の活用に関して他団体との貸し借りと活用の広がり期待できますか。

A 3 :

この事業の継続発展の観点から、市内外の他の団体でも活用可能だと考えている。ただし、新しいものは貸し借りできるが、古く傷んだものは祭礼能でしか使わないようにしている。

#### ④雅楽の伝統の継承と維持発展事業（入船区雅楽委員会）

Q 1 :

高価な楽器をそろえて後継者育成を目指すなら、演奏の場を増やす計画はありませんか。

A 1 :

昨年度の交付金申請時にも質問や指摘を受け、もっと活動をしなればと思い、しんしろまちなかサロンで演奏をした。ただ自分たちも音楽家ではないため、演奏できる曲数にも限りがあり、単独演奏会は難しい。イベント等の機会があれば予定を調整して披露していきたいので、声をかけてほしい。

Q 2 :

資金計画について寄付を募る、区からの予算措置など交付金に加えて何か方法は考えられていますか。

A 2 :

委員会の運営費は区から出ている。修理は高額であり、運営費の積み立てでは賄いきれない。新調するにしても非常に高額である。寄付を募るにも目標金額が高額すぎて難しいと考えている。

Q 3 :

メンテナンスや新調等、今年度以降の計画を教えてください。

A 3 :

毎年5月に楽器点検をしている。軽微な修繕はその都度している。調子がおかしい場合には素人が手を出せず、専門業者に依頼をする。費用は運営費で何年か積み立てている。新調については、全3年計画でそろえていきたい。

Q 4 :

委員は入船区の方だけか。区外の人はいれないか。

A 4 :

現在は入船区民しかいないが、排他的ではないため、興味がある人は是非一緒に活動したい。

#### ⑤新城市指定無形文化財立物花火 親柱・背板製作事業（新城市東新町立物花火保存会）

Q 1 :

資金計画について修理などの機材メンテナンスの積み立てや、市の支援要請、区の負担など他の資金調達の方法は考えられないですか。

A 1 :

区の祭礼予算から花火の実演代は出ており、不足分には会員会費等を充てているが、物価高騰もあり自主財源は底をついている。氏子会にも積立をお願いしていたが、今となっては間に合わない状況である。伝承育成のための人づくりの面では、市教育委員会から助成もある。次年度すでにできるかどうか心配するほど劣化が進んでいる。なるべく安価に済むよう会員と協力団体、区民とおもに手作りで細工したりする努力をするが、自主財源がないためどうかよろしくお願ひしたい。

Q 2 :

今回の親柱、背板について耐久年数はどれくらいですか。

A 2 :

現在使用している柱の使用年数を考えると、60年～70年程と想定される。ヒノキの素材や保管状況にもよる。

Q 3 :

消耗品費（コピー用紙）、印刷製本費（インクカートリッジ）は配布物の作成に充てられると思うが、配布は活動計画の何月になりますか。

A 3 :

5月に回覧にて会員募集、お手伝いの案内を出す。9月には立物花火チラシを作り、配布する。

Q 4 :

委託料に計上した項目について、予算計上科目の修正をした方がよいのではないか。（工事請負費など）

A 4 :

<事務局回答>市では予算科目の誤りはないとして申請を受理している。

#### ⑥あささんぽ ごはん～地域の食卓～（あささんぽ ごはん実行委員会）

Q 1 :

想定来場数200名を想定されていますが、これまでの来場者数実績を教えてください。また年齢など、どのような人が来場されていますか。

A 1 :

これまでの実績は平均150名ほど。年齢は幼児から高齢の方まで様々である。夜の開催は200～300名ほど来場された。

Q 2 :

軽食・飲み物等の費用はどこから出ていますか。

出店料の収入が各回7,000円とありますが、朝マルシェの出店数は毎回決まっておりますか？また、そのお店はどのようにきまっているのですか？

A 2 :

軽食・飲み物の費用は来場者の実費負担。出店者が販売をしているマルシェを開催している。出店者は毎回決まっておらず、10店舗前後を目安に募集をしている。出店者はSNSの情報などから情報を得て、出店を直接交渉している。

Q 3 :

全体のイメージが捉えにくいので、会場レイアウトと飲食以外の活動を教えてください。また、情報に触れられる機会というのは、そういう専用のブースがあるという理解でいいでしょうか？

A 3 :

（レイアウトは事業説明中に説明）

情報に触れられる機会は、現状はパネルを用意して、みんなでご飯を食べることの良さや、挨拶の大事さ、そういった地域の目を育む活動の仕掛けをしている。今後強化し

ていきたい。

その他補足説明：

- ・集客の取り合いにならないよう、夜店や花火の日に合わせて開催はしない。
- ・イベント開催は第2日曜日の朝を想定しているが、今後随時決めていく月もある。
- ・団体のコアメンバーは3人だが、ボランティアが3人と、他にも毎回手伝いに来てくれる人もいる。
- ・任意団体であるため、自分たちの資源（備品）を使って開催している。今後、行政区等と協働できるならテント等を借りることも積極的に考えたい。

#### ⑦区民相互交流事業「生まれて、暮らして良かった新城プロジェクト」(栄町公民館運営委員会区民相互交流事業部会)

Q1：

盆踊りの参加者を栄町区民に限ると地域自治区全域の住民への公益性には欠けると思われます。自治区内の他の区民も参加できるような交流事業は検討されませんか？

A1：

盆踊りは昔のように近隣区の皆さまとの連帯ができればとも思っている。

Q2：

ガーデンベンチの設置場所はどこですか？また使用する機会は盆踊り以外にもありますか？

また、自己資金ゼロとなっていますが、実施団体に公民館運営委員会が入っています。公民館備品ということでしたら公民館の運営費などは使用しないのでしょうか。設置場所が公民館以外であれば、維持・保管管理は交流事業部会でされるのでしょうか？

A2：

公民館は建物そのものの使用維持管理費用が予算化されている。ガーデンベンチは新城駅北の北広場の倉庫で保管する。公民館運営委員会で管理をしていく。

Q3：

印刷製本費が30,000円は少し高いのではと思いますが、特別な製本物があるのですか？また、消耗品費・印刷費の中に同じ様な品目がある様に思います。継続で行っている事業の様ですが、毎年の残りの物品などは使用できないのでしょうか。

A3：

これまでの花いっぱい運動の記録写真や、区民からの出品写真の展示で文化祭の賑わいを補うため費用がかかる。ラミネーター等の購入費用もかかるため、この金額になる。残り物品は無駄のないように使いまわししている。

#### ⑧こどもとおとな 地域つながるプロジェクト (みんなのわ 東新町)

Q1：

昨年(初年度)の活動実績現時点(12月末で可)でよいので参加者人数や、参加者の感想などを教えてください。

A1：

全8回実施し、平均40人程度の子どもたちと10人ぐらいの親御さんの参加があった。子どもからはまたやってほしい、楽しかったとポジティブな意見があった。大人からは実施してくれてありがたいと声があった。ドローン体験は、なかなかできない体験ができて嬉しかったとの感想があった。餅つきは105名が参加された。

豆まきはインフルエンザ流行で38名と少な目ではあった。

Q2：

参加者を東新町区民に限ると地域自治区全域の住民への公益性には欠けると思われます。せめて近接する弁天区や西新町区の世帯にも回覧板などで告知することは検討されませんか？

A2：

最初の目的が東新町区で子ども会が消滅したことがあり、まず東新町区の子どもに還元したい気持ちがあった。今年度実施していて他の行政区からの参加もあったので、チラシ配布も他の行政区の力を借りられるといいかなと考えている。

Q3：

地域の人々の協力を得るための具体的な方策はどんなことですか。また、問題点はあるでしょうか。

A3：

共働きが増えて役員をやるのが嫌だと思われる人が増えたことも、子ども会がなくなった要因であると思うが、私たちのように子ども会があったほうが良いと思う大人もいる。実際に足を運んでもらい、子どもの顔を見て、自分も参加したいと思ってもらうことが大事。企画段階からでなく当日来て当日手伝う、そんな参加の仕方も大事。問題点としては、負担に感じてしまう保護者がいるという点があるので、そこは立ち上げた自分たちが買って出たい。

その他補足説明：

・区民でも公民館使用料はかかるため、申請内容にも入れている。

**5 閉会（公開審査終了）**

**6 休憩**

**7 最終審議**

事務局で集計した審査の結果を説明し、地域協議会としての最終的な審議を団体ごとに行った。採点しなかった委員は協議から外れた。

申請のあった8事業のうち1事業は、採択基準点に達せず不採択となった。他7事業は採択基準点以上であったが、申請総額が予算枠を超過していたため、新城地域自治区地域活動交付金審査基準に基づき得点の高い申請から採択され、第7位の事業には申請額に対し満額でない内定額で採択された。

また、地域協議会からの意見等について申請団体へ伝えることとなった。